

2025 年度 2 月入試 (英語)

出題意図

英文を正確に日本語へと移換する基礎的な読解力に加え、テキストの全体構造を俯瞰し、その背後にある哲学的主張を的確に把握する洞察力を問う。あわせて、理解した内容を論理的に英語で再構成し、表現する能力を評価する。

解答例

問 5 I agree that a decent democratic society must respect the human rights of the members of the state fought against, because they do have human rights. However, I don't agree with the second reason that a democratic state must teach its enemy the content of human rights. In my view, this idea is arrogant, as if looking down on the enemy, though of course if the enemy happens to learn something from the decent behavior of the democratic state, that is desirable.

哲学史

出題意図（例年同じ）

哲学研究を進めるために必要な哲学史上の基礎知識と、重要なテーマの史的展開を踏まえた論述力と批判的思考を確認する。

解答または解答例 <博士前期・後期共>

- I. 哲学研究を進めるために必要な基礎知識と解答を記述するに際しての論理性を見る。解答例を示すには馴染まない。
- II. 哲学史上重要なテーマの史的展開を論述する力と批判的思考を解答で披瀝することを求めている。解答例を示すには馴染まない。

2025年2月 フランス語



出題意図

フランス語を正確に読解し、原文のニュアンスを十全に汲み取り、精緻な日本語に翻訳する表現力を評価する。

解答

【1】哲学における端緒の問題は、正当にも、きわめて繊細な問題だといふにみなされてきた。というのも、端緒となるということはあらゆる前提を排除するということの意味する。しかし、科学においてはひとつの厳密な公理系によって排除されうる客観的な前提が問題になるのに対して、哲学においては、客観的な前提ばかりでなく、主観的な前提も存在する。客観的な前提と呼ばれるのは、なんらかの所与の概念において表立って前提されている諸概念である。たとえばデカルトが「第二省察」において、人間を理性的動物と定義したがらないのは、そのような定義が、理性的という概念と動物という概念とを、既知のものとして表立って前提しているからだ。したがって、〈コギト〉をひとつの定義として提示することによって、デカルトは、類と種差を用いる方法の重荷となっているあらゆる客観的な前提を被いのけるつもりでいるのだ。しかしながら、明らかに、デカルトは、それとは別の種類のいくつかの前提から、つまり主観的あるいは暗黙の前提から免れていない。すなわち、概念のなかにはなく、感情のなかには包み込まれている前提から免れていない。自我、思考、存在が何を意味しているのかは誰でも概念なしに知っている、ということが前提されているのだ。

【2】私たちの知覚は対象へと到達するが、対象がひとたび構成されると、今度はその対象のほうが、それについて私たちが過去に持っていた、あるいは今後持ちうるすべての諸経験の理由となって現出するようになる。たとえば、私が隣家をある角度から眺めている場合、セーヌ河の右岸からだったら別のように眺められるであろうし、またその家の屋内からだったらまた別のように、さらに飛行機からだったらまた別のように眺められるだろう。しかし家そのものは、これらの現われのどれでもなく、ライブニッツも言ったように、これらの諸パースペクティブの、またあらゆる可能的な諸パースペクティブの実測図、つまりはこれらの諸パースペクティブをすべて派生させてくることのできるそれ自体としてはパースペクティブを持たない終極項なのであり、それはどこからも見られることのない家なのである。けれども、こうした言葉はいったい何を意味しているのだろうか。そもそも見るとはつねに、どこかから見ることでないのか。家そのものはどこからも見られていないものだということは、それが不可視のものだということではないのか。にもかかわらず、私が自分の目で家を見ていると私が言うとき、私はもちろんなんら議論の余地のないことを言っているのである。つまり、それによって私の意味するところは、なにも私の網膜や水晶体が、物質的器官としての私の目が働いて、その家私に見させている、ということではない。自分

自身にだけ問いかけるならば、私は網膜や水晶体のことをなにも知りはしないのだから。そうではなく、私が表現しようとしているのは、対象へと接近するある種の仕方、私自身の思考と同じく不可懐疑的であり、同じく私によって直接的に知られている「眼差し」なのである。私たちはいまや、見る働きがどこかからおこなわれるものでありながら、しかもそのパースペクティブのなかに閉じ込められてしまわないということはどのようにして可能なのかを、理解しなければならない。

2025年2月哲学 ドイツ語

〈出題の意図〉

哲学に特有な探求の徹底性とその開かれた学的追究からの問いの在り方を論及している、今日のドイツ語圏で名高い著者の〈哲学史〉を要約した著書の序論の部分から、大学院で哲学を専攻する受験者たちの内でドイツ語選択者のドイツ語テキストの広い範囲での理解力を試験する。

①解答例

②出題意図

出題文は、特段に専門的な用語を含まない、平易な用語をもちいて記されている。概括的な内容理解、およびその理解にもとづいた代名詞の指示語の理解、論者の論旨と批判的に援用されている内容の区別を課題など、基礎的な長文読解の能力を問うものである。

ギリシア語

出題意図（例年同じ）

出題（第一問：アリストテレス『エウデモス倫理学』、第二問：プラトン『ゴルギアス』）

出題意図：古代哲学を原典から学ぶための基礎知識と、訳文を通じての日本語表現力を見る。いずれも邦訳が簡単に入手できる題材。

解答または解答例 <博士前期・後期共>

第一問：アリストテレス『エウデモス倫理学』第一巻第一章 1214A

邦訳例：荻野弘之訳『アリストテレス全集 16』岩波書店 2016

第二問：プラトン『ゴルギアス』 475A-B

邦訳例：加来彰俊訳『プラトン ゴルギアス』岩波文庫 1967